

但馬の蝶 6 題

永幡嘉之

1993年の但馬での蝶類の採集・観察記録のなかから、いくつかの事柄を報告しておきたい。

1. キバネセセリ *Bibasis aquilina* の採集記録 (写真1・2)

1992年に続き(永幡, 1993) 本年もまた2頭を採集することができた。

美方郡浜坂町城山	1 ♂	24-VII-1993	永幡嘉之
村岡町川会	1 ♂	9-VIII-1993	永幡嘉之

浜坂町城山ではリョウブに、村岡町川会ではカラスザンショウに、それぞれ曇天の日中に飛来していた。従来の採集記録が極めて少ないのは、活動条件が限られるためであろう。センノキは浜坂町居組の海岸部などには極めて多く、また但馬全域で標高を問わず広く分布している樹木である。本種も個体数は少ないながら、広く分布しているものと思われる。

2. ウラナミジャノメ *Ypthima motchulski* の採集記録 (写真3)

但馬では採集記録の極めて少ない種とされていた(広畑, 1981)が、地元の人には産地が知られていたようであり、安達(1980)には一見普通種を思わせるような記述がある。本年、浜坂町城山で発見した。

美方郡浜坂町城山	3 ♂♂	1-VIII-1993	永幡嘉之
----------	------	-------------	------

発生地は海に面した急斜面で、水のしたたる草付である。周囲は樹林に覆われており発生地の面積は狭い。しかし成虫は広く見られるので、各所に発生地が点在しているのかもしれない。これまでヒメウラナミジャノメばかりと思い込んでよく注意していなかったものである。なお発生は年1回と思われ、1993年は低温のためか、8月29日になお第1化と思われる汚損個体が観察された。

浜坂町の低地には、他にも多くの産地があることと思われる。

3. イシガケチヨウ *Cyrestis thyodamas* の4月の採集例 (写真4)

最近、山陰海岸で東進が注目されている種である。春季の採集例は、但馬では

これが初めてかと思われる。

美方郡浜坂町城山 1♀ 13-IV-1993 永幡嘉之

本個体が同地で越冬したものかどうかは不明だが、同年の夏の観察では一時的な発生はおろか、成虫すら観察できなかった。しかし、1992年同地で目撃されたという話を聞いている。食草となり得るものとして、自生のイヌビワとイタビカズラ、人家のイチジクの3種が考えられ、前2者はともに量も多い。

4. ヒオドシチヨウ *Nymphalis xanthomelas* の越夏・休眠の観察例

前号で山小屋での休眠を報告した（永幡，1993）が、本年もいくつかの場면을観察することができた。

その1. 1993年4月16日 美方郡浜坂町城山

海岸の西向き斜面につけられた遊歩道沿いの、高さ2m前後の崖で、テイカカズラが密生してオーバーハング状になっている部分に、16時54分、1頭の本種が潜り込むのを観察した。静止した場所はよく確認できなかったが、叩き出すと再び同じ行動をとった。活動は3月より始まっており、これは睡眠場所に潜り込んだ個体だと思われた。

その2. 1993年7月1日 美方郡浜坂町観音山

曇天の15時45分頃、観音山山頂で、登山道沿いのスダジイ根際にできた小さな崖の下に1頭の本種が潜り込み、歩行して仰向けに静止し、翅を数回開閉してからじっと動かなくなるのを観察した。

その3. 1993年8月17日 鳥取県岩美郡岩美町河合谷高原

県境からわずかに鳥取県寄りの牧場の、草原のなかに孤立しているミズメ生立木の洞内の朽ちた部分を崩したところ、奥の空間に3頭の本種が仰向けにじっと静止していた。天候が悪く、下山を急いだため細かな観察はできていないが、全く動く様子はなく休眠中と思われた。なお、崩す前は静止位置は外部からは全く見えなかった。

その4. 1993年10月28日 鳥取県八頭郡八東町扇ノ山山頂（写真5）

当日は快晴で、気温も高かった。午後2時頃、扇ノ山山頂小屋内の窓際でバタバタ翔っている本種2頭と、窓の枠に仰向けにとまってじっと休眠している本種1頭とを観察した。付近は既に落葉が終わりに近づき、夜間の気温の低下が予想された。

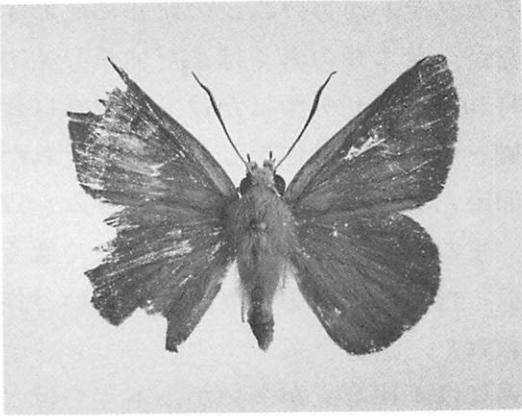


写真1

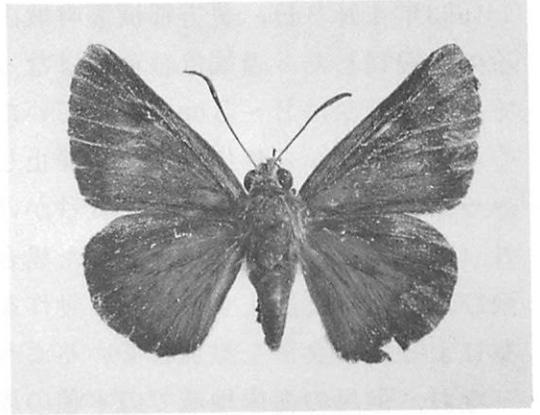


写真2

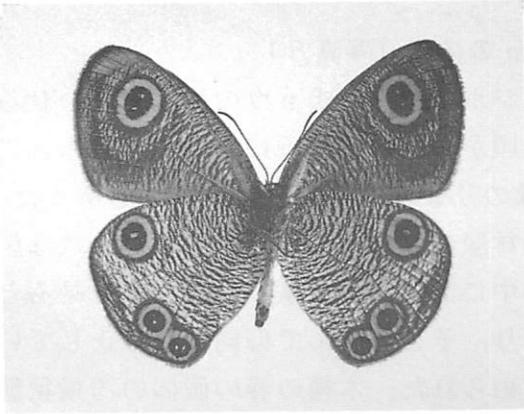


写真3

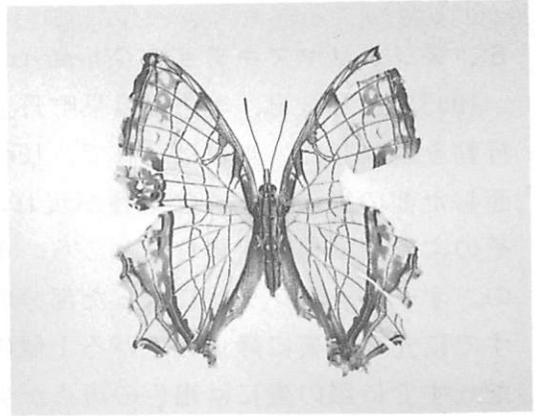


写真4



写真5

写真6

写真7

写真8

5. アカタテハ *Vanessa indica* の産卵観察例 (写真6・7)

1993年4月3日、美方郡浜坂町城山で、アカタテハがカラムシの新芽に産卵するのを観察した。道端は緑色にはなっていたが、草本類の多くはまだ伸長し始めで、カラムシは2～3cmになっていた。13時20分から40分頃にかけて、母蝶は緩やかに飛びながら無作為に草に静止し、前脚を震わせる動作をしたのち、それがカラムシであった場合は2～3秒かけて1卵産んですぐ飛び立った。カラムシ以外(スイカズラなど)に静止した場合には、また飛び立っては落ち着きなく低く飛び、他の草に静止するという動作をくり返した。この前脚を震わせるという作業によって、食草を識別しているように思われた。

なお、但馬の海岸地域での本種の周年経過には不明な点が多いが、本年もほとんど観察ができずじま이었다。

6. スジボソヤマキチョウ *Gonepteryx aspasia* の休眠 (写真8)

1993年11月3日、美方郡温泉町丹土でスジボソヤマキチョウの休眠を思わせる行動を観察した。当日は晴れで、10時30分頃から11時30分頃にかけて、雑木林に面した池の堤防に次々に本種が現れ、林縁の lindow で吸蜜する個体もあった。そのような本種を追跡したところ、1頭が林縁のコナラの根際に生じた小さな崖の、オーバーハング状になった部分の草の中に潜るのが観察された。よく見るとすでに先に葉裏に静止している1個体があり、そこに並んで仰向けに静止していた。すでに翅の裏には褐色の斑点が少し認められた。本種の春の個体の汚損状態には通常とは異なった越冬場所を想わせるものがあり、興味あるところだが、その後の追跡はできていない。

参考文献

広畑政己(1981)兵庫県に於けるウラナミジャノメの分布と生活史、

てんとうむし7:1-5.

安達留二郎(1980)但馬(北但)地方蝶類目録, IRATSUME4:43-50.

永幡嘉之(1993)但馬の蝶10題, IRATSUME17:1-7.